



知らない国の知らない文化を持つ人々との交渉

ナミビアでの活動内容は、地方役所に土木技術者として勤務して全般の技術指導をする事と、貧困層の住むスラムの区画整理をしてインフラを整備する事でした。スラムの家屋はトタンを組み合わせただけのとてもシンプルな家屋がほとんどですが、彼らにとっては多くの家族が住む大切な家。知らない国の知らない文化を持つ人々との交渉は大変でした。

この区画整理がこれからのスラムの発展と将来の基盤となるので責任重大です。

計画図を基に測量を行って区画割りを行い、住民と根気よく交渉を行って家屋の移設を実施し、新しい道路と上水道を設置しました。一緒に働いた同僚の意識も高く、順調に測量し、家屋の移設に伴う補償の準備を終えましたが、予算の母体となる中央省庁との政治的な理由で予算が突然下りなくなったり、役所内部の問題で役所の機能が停止してしまったりと問題が多発しました。他の街のプロジエクトを視察したり、中央省庁で情報収集を行ったり、根気よくスラムを訪れて、住民と話す事でプロジエクトを理解してもらえ、移設に至りました。

文化の違いを感じると同時に、命の近さを感じました

街周辺の広大なサバンナには点々と農場があり、牛やヤギの群れが伸び伸びと飼育されています。これらは彼らにとって重要なステータスで、食用・商用に使われ冠婚葬祭では必ず解体され、振る舞われます。牛・ヤギの解体は日本ではなじみがありませんが、子どもそばで見ながら解体を手伝う姿が日常に見られます。文化の違いを感じると同時に、命を身近に感じました。

また、現地で生活に欠かせないのがロバでした。移動手段に食用にと、粗食で病気になるくらいロバは重宝されています。街ではロバ車が車に負けないくらい多くの多さで走っていました。

郷に入るといって過ごせた家族の一員として過ごせた

私が住んでいた街は人口1万人程度の小さな街で、街全体が家族のような街でした。

同じものを食べ、共に働き、喜怒哀楽を共にすることで私もその家族の一員として過ごす事ができたように思います。厳しい生活環境からでしょうか、現地の人は困っている人を見たら絶対に見過ごしません。自分ができる事が何かないか必ず探します。道端に故障

現地での食生活 ヤギ肉が好きになりました

現地の主食は、とにかく肉でした。牛・ヤギ・ロバ、狩りで捕った野生動物の肉も食べられています。肉だけでなく費用がかさんでしまうので、揚げパンやアフリカの伝統食品であるとうもろこし粉を熱湯で練ったポリッジを食べています。私が住んでいた街は、狩猟民族起源のグマラ族が主要民族だったので、特にその傾向が強かったのかも知れません。

男性は野菜を食べません。ポテトサラダ・ニンジン・玉ねぎなどの野菜が少しでもあればいい方です。他にマカロニなども食べられています。最初は「ヤギ肉なんて堅くてクセがあって…」と思っていましたが、ヤギ肉を焼いているおいしい店を見つけてから大好物になりました。信じられないほど柔らかく、うまみがあって、何より安い。手の平サイズで50円くらいです。

# 失業率50% 発展を願う人々 スラムの希望を垣間見た

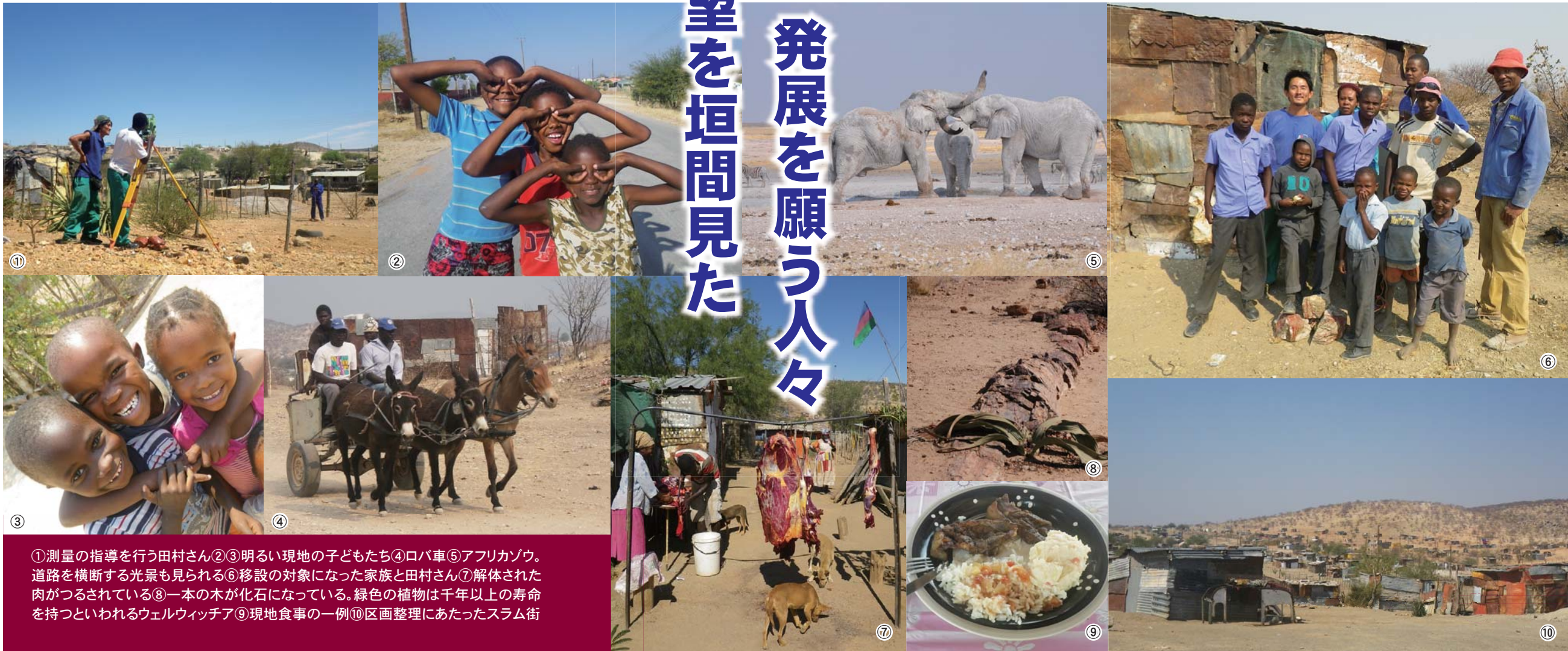
車があれば必ず止まって修理を手伝いますし、私が現場で言葉が通じず困っていたら、誰かが来て通訳してくれたり、肉も食べきれないくらいおすそ分けをもらったり、同僚にも数えきれないくらいお世話になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。

失業率50%。発展を願う人々 スラムの希望を垣間見た

ナミビアの失業率は50%、スラムにおいては70%を超えます。若者は仕事探しに苦労していますが、共有の文化でお互いを助け合いながら、毎日を明るく過ごしている。スラムで暮らしているという悲壮感はありません。

区画整理にめどが付き、上水道の工事が行われた際に、スラムの住民が作業員として優先的に雇われました。正直、少し心配だったので、そんな心配もよそに役所・業者・作業員が一体となって凄まじい早さで仕事を完成させました。極度の乾燥地帯で汗を流し、懸命に働くその姿にスラムの希望を垣間見たような気がします。

アフリカの地方役所で、地元の人と共に街の発展を願いながら活動したこの2年間は、本当にかげがえのない経験になりました。地球の反対側から、この小さな街の平和と発展を願っています。



①測量の指導を行う田村さん②③明るい現地の子どもたち④ロバ車⑤アフリカゾウ。道路を横断する光景も見られる⑥移設の対象になった家族と田村さん⑦解体された肉がつるされている⑧一本の木が化石になっている。緑色の植物は千年以上の寿命を持つといわれるウェルウィッチア⑨現地食事の一例⑩区画整理にあつたスラム街

**世界も、自分も、変える仕事。**

ジャイカ JICA (国際協力機構)

では、青年海外協力隊員やシニア海外ボランティアなどの、ボランティアを募集しています。隊員の体験談や説明会も開催していますので、興味のある方は、お問い合わせください。

JICAは、日本の政府開発援助(ODA)を一元的に行う実施機関として、開発途上国への国際協力を行っています。

■問い合わせ先  
JICA 四国(高知県国際交流協会内)  
☎088-875-0022  
HP <http://www.jica.go.jp/>